

和光コンクリート社の 【護岸ブロックの平均明度一覧】

背景

- 平成26年3月に改定された「美しい山河を守る災害復旧基本方針」では、護岸が露出する場合の注意点として、「法面の明度は6以下を目安とする」「彩度を抑制し、周囲の景観と調和させる」「テクスチャーを持たせる」「表面の景観パターンに留意する」というポイントが明記されました。
- 護岸ブロックの明度測定方法について、独立行政法人土木研究所自然共生センターと公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会との共同研究成果として「護岸ブロックの平均明度測定方法(案)」が制定され、以下のフローで護岸ブロックの平均明度証明が行われることとなりました。(平成26年8月から受付開始)



※護岸ブロックの平均明度測定方法(案)に関する講習会を受講したメーカー職員が平均明度測定方法(案)に沿って写真撮影
※施工現場ではなく護岸ブロックごとに各工場で撮影する

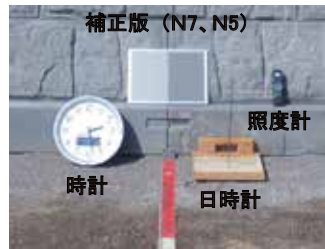
※メーカーから送られてきた写真について
明度判定委員会にて明度判定実施
※当面積みタイプブロック

※災害復旧箇所河川環境特性整理表(A表)の設計・施工チェックリストには【護岸の明度6以下を目安】と表記されます。
※災害査定時及び災害成功認定時に【明度】の確認が必要となりました。

撮影状況等



指定カメラ (FINEPIX P770EXR)



補正版 (N7, N5)
照度計 (40,000 ルクス以上)



撮影状況



明度証明書

平均明度一覧

【 】内数値: 明度



ポーラスけんち I 型【5. 0】



ポーラスけんち II 型【3. 0】



アントラーブロックC型【4. 5】



リバーブロック【3. 5】



小口止めブロック【5. 0】



緑天ブロック【4. 5】



ふる里浅目地【4. 5】



ふる里深目地【4. 0】

※ポーラスけんちはポーラスコンクリート、その他は全てフライアッシュコンクリートで製造しています。

※緩傾斜(1:1.5より緩い)護岸用ブロックについては平均明度測定方法(案)が整備され次第、明度測定申請予定です。

※上記以外で、アントラーブロックA型【5.0】、アントラーブロック500型【4.5】、アントラーブロック300型【4.5】の明度証明を取得しています。